

平成24年

人口動態統計（確定数）大分県の概況

目 次

	頁
結果の概要	
概況について	1
人口動態総覧	2
1 出生	3
2 合計特殊出生率	3
3 死亡	4
4 乳児死亡	6
5 新生児死亡	6
6 自然増加	7
7 死産	8
8 周産期死亡	9
9 婚姻	10
10 離婚	11
用語等の説明	12

大分県福祉保健部

担当：福祉保健企画課 地域保健・情報班
(県庁内線2627、2628)

平成25年9月10日
福祉保健部

平成24年人口動態統計（確定数）大分県の概況について

平成24年の人口動態統計については、平成25年6月5日の厚生労働省による概数の概況の公表を受け、6月10日に大分県分について取りまとめの上、公表している。

このたび、全国分の確定数の概況が、9月5日に厚生労働省から公表されたため、大分県分について取りまとめた。

確定数では、合計特殊出生率、死亡、乳児死亡、新生児死亡、死産、周産期死亡、婚姻の7項目において大分県の全国順位が変動している。これは、概数公表時には端数処理され同順位となっていたものが、確定数では端数処理せず順位付けしたことによるものである。

※ 人口動態統計とは…戸籍法等による、出生、死亡、死産、婚姻及び離婚の5つの届出を基に市町村長が作成する人口動態調査票を取りまとめ、集計したもの。

人口動態総覧

		大 分 県			全 国			
		23年	24年	対前年	23年	24年	対前年	
1 出 生	実 数	9,988人	9,650人	△338人	1,050,806人	1,037,231人	△13,575人	
	率	8.4	8.2	△ 0.2	8.3	8.2	△ 0.1	
	順 位	16位	21位	5位↓				
2 合計特殊出生率	率	1.55	1.53	△ 0.02	1.39	1.41	0.02	
	順 位	11位	13位	2位↓				
3 死 亡	実 数	13,806人	14,050人	244人	1,253,066人	1,256,359人	3,293人	
	率	11.7	11.9	0.2	9.9	10.0	0.1	
	順 位	32位	32位	-				
4 乳児死亡	実 数	32人	24人	△8人	2,463人	2,299人	△164人	
	率	3.2	2.5	△ 0.7	2.3	2.2	△ 0.1	
	順 位	42位	36位	6位↑				
5 新生児死亡	実 数	16人	9人	△7人	1,147人	1,065人	△82人	
	率	1.6	0.9	△ 0.7	1.1	1.0	△ 0.1	
	順 位	41位	15位	26位↑				
6 自 然 増 加	実 数	△3,818人	△4,400人	△582人	△202,260人	△219,128人	△16,868人	
	率	△ 3.2	3.7	6.9	△ 1.6	△ 1.7	△ 0.1	
	順 位	27位	30位	3位↓				
7 死 産	実 数	301胎	269胎	△32胎	25,751胎	24,800胎	△951胎	
	率	29.3	27.1	△ 2.2	23.9	23.4	△ 0.5	
	順 位	43位	39位	4位↑				
	自然死産	実 数	111胎	96胎	△15胎	11,940胎	11,448胎	△492胎
		率	10.8	9.7	△ 1.1	11.1	10.8	△ 0.3
		順 位	20位	7位	13位↑			
	人工死産	実 数	190胎	173胎	△17胎	13,811胎	13,352胎	△459胎
		率	18.5	17.4	△ 1.1	12.8	12.6	△ 0.2
	順 位	45位	43位	2位↑				
8 周 産 期 死 亡	実 数	43	36	△ 7	4,315	4,133	△ 182	
	率	4.3	3.7	△ 0.6	4.1	4.0	△ 0.1	
	順 位	24位	15位	9位↑				
	妊娠満22週以後の死産	実 数	32胎	31胎	△1胎	3,491胎	3,343胎	△148胎
		率	3.2	3.2	0.0	3.3	3.2	△ 0.1
		順 位	17位	24位	7位↓			
	早期新生児死亡	実 数	11人	5人	△6人	824人	790人	△34人
		率	1.1	0.5	△ 0.6	0.8	0.8	△ 0.0
	順 位	40位	3位	37位↑				
9 婚 姻	実 数	5,667組	5,652組	△15組	661,895組	668,869組	6,974組	
	率	4.8	4.8	0.0	5.2	5.3	0.1	
	順 位	24位	25位	1位↓				
10 離 婚	実 数	2,110組	2,187組	77組	235,719組	235,406組	△313組	
	率	1.78	1.86	0.08	1.87	1.87	0.00	
	順 位	20位	30位	10位↓				
平均発生間隔 (平成24)		出生…5分42秒に1人			出生…30秒に1人			
		死亡…3分25秒に1人			死亡…25秒に1人			
		婚姻…1時間32分60秒に1組			婚姻…47秒に1組			
		離婚…4時間0分20秒に1組			離婚…2分14秒に1組			

注1) 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率は人口千対。乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対。死産率は出産(出生+死産)千対。周産期死亡率及び妊娠満22週以後の死産率は出産(出生+妊娠満22週以後の死産)千対。

注2) 全国順位について、出生・合計特殊出生率・自然増加・婚姻は高率順、他は低率順としている。

1 出生

(1) 出生数は9,650人で、前年より338人減少、過去最少となった。

出生率(人口千対)は8.2で、前年の8.4を下回った。

(2) 出生数を母の年齢別にみると、30歳代後半から40歳代前半で73人増加し、10歳代で30人、20歳代で208人、30歳代前半で171人の減少となっている。

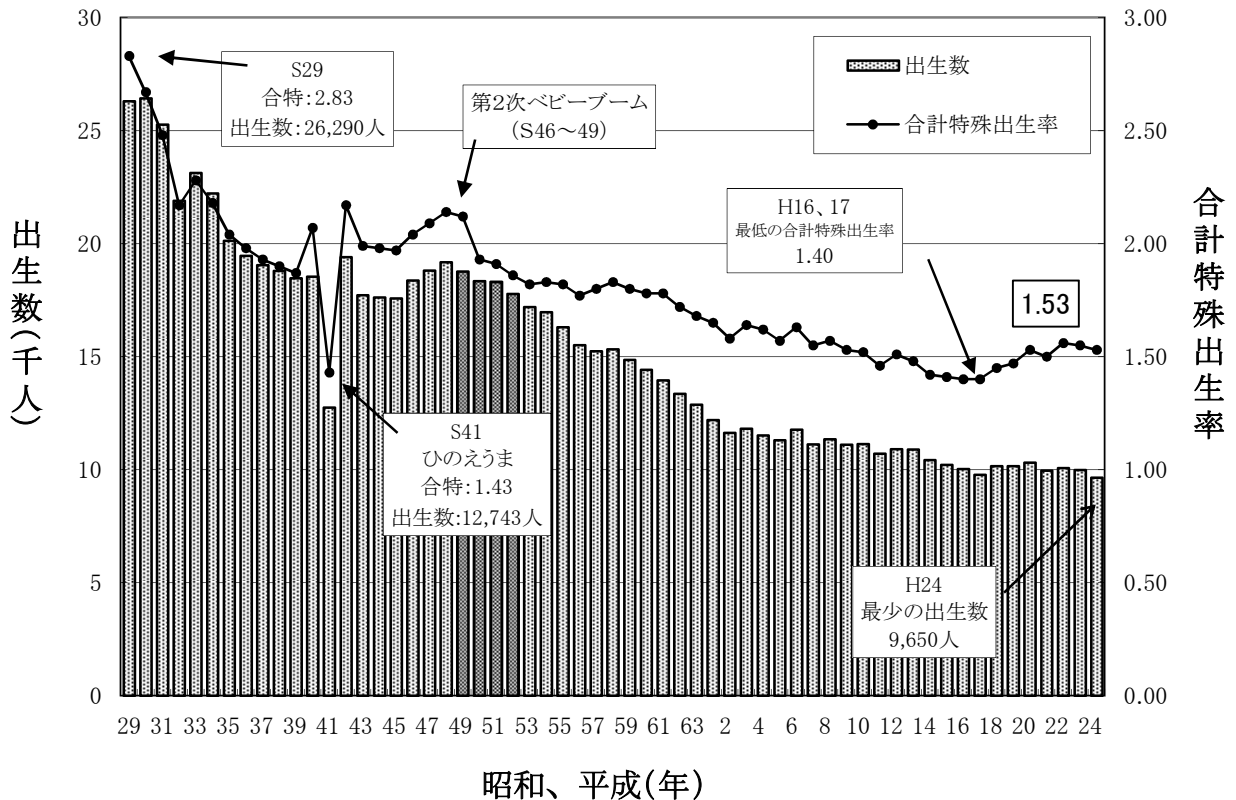
年齢階級(歳)	出生数 24年	出生数 23年	増減
～14	1	2	△ 1
15～19	108	137	△ 29
20～24	1,033	1,202	△ 169
25～29	2,993	3,032	△ 39
30～34	3,295	3,466	△ 171
35～39	1,879	1,854	25
40～44	337	289	48
45～49	4	5	△ 1
50～	0	1	△ 1
合計	9,650	9,988	△ 338

2 合計特殊出生率

合計特殊出生率は1.53で、前年の1.55を下回ったが、5年連続で1.5台を維持した。

なお、全国の合計特殊出生率は1.41で、前年の1.39を上回った。

出生数及び合計特殊出生率の年次推移

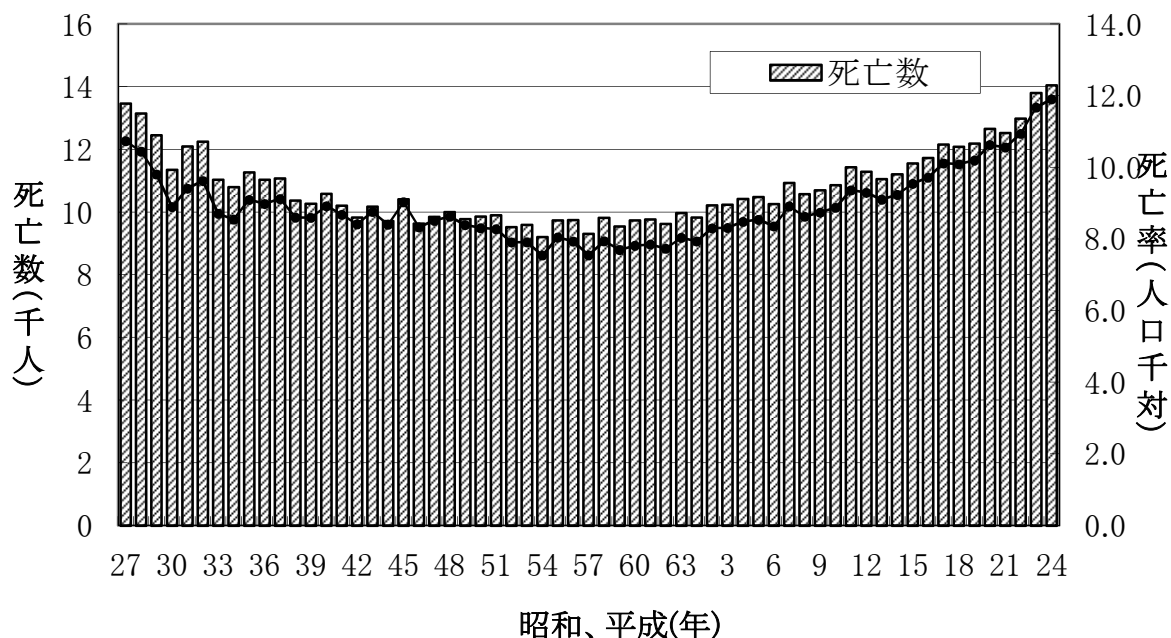


3 死亡

(1) 死亡数は14,050人で、前年より244人増加した。

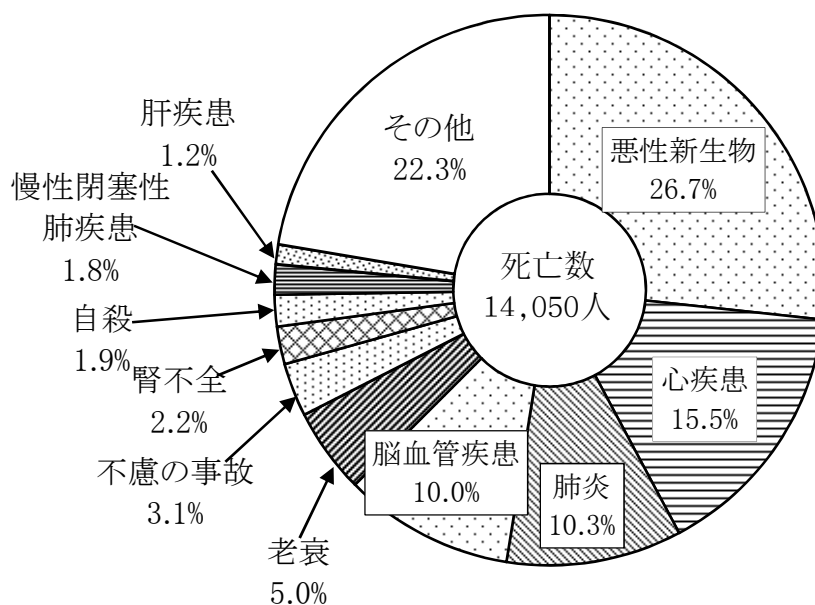
死亡率（人口千対）は11.9で、前年の11.7を上回った。年次推移を見ると、昭和50年代後半以降、上昇傾向にある。

死亡数、死亡率の年次推移



(2) 死因順位についてみると、第1位は悪性新生物26.7%、第2位は心疾患15.5%、第3位は肺炎10.3%で、この3大死因が死亡数の過半数52.5%を占めている。

死因別死亡割合



また、死因別死亡数を前年と比較すると、減少したのは不慮の事故（62人）、増加したのは老衰（134人）や心疾患（76人）などである。

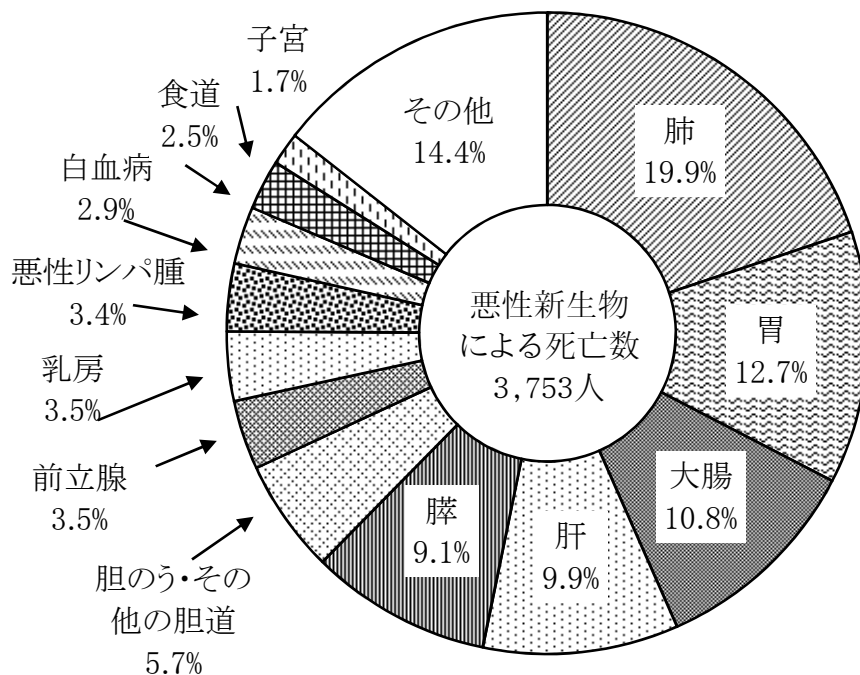
主な死因別死亡数・死亡率

死 因	平成 24 年				平成 23 年			対前年比	
	順位	死亡数	死亡率	割合	順位	死亡数	死亡率	死亡数	死亡率
全死因		14,050	1192.7	100.0		13,805	1166.9	245	25.8
悪性新生物	1	3,753	318.6	26.7	1	3,749	316.9	4	1.7
心疾患	2	2,176	184.7	15.5	2	2,100	177.5	76	7.2
肺炎	3	1,448	122.9	10.3	3	1,433	121.1	15	1.8
脳血管疾患	4	1,406	119.4	10.0	4	1,391	117.6	15	1.8
老衰	5	704	59.8	5.0	5	570	48.2	134	11.6
不慮の事故	6	441	37.4	3.1	6	503	42.5	△ 62	△ 5.1
腎不全	7	312	26.5	2.2	7	303	25.6	9	0.9
自殺	8	261	22.2	1.9	8	251	21.2	10	0.9
慢性閉塞性肺疾患	9	249	21.1	1.8	9	210	17.8	39	3.4
肝疾患	10	162	13.8	1.2	10	148	12.5	14	1.2

注) 死亡率は人口10万対。

なお、悪性新生物の部位別の死亡順位を見ると、肺がん（19.9%）を筆頭に、胃がん（12.7%）大腸がん（10.8%）肝がん（9.9%）と続き、この4つで悪性新生物の53.3%を占める。

悪性新生物部位別死亡者数



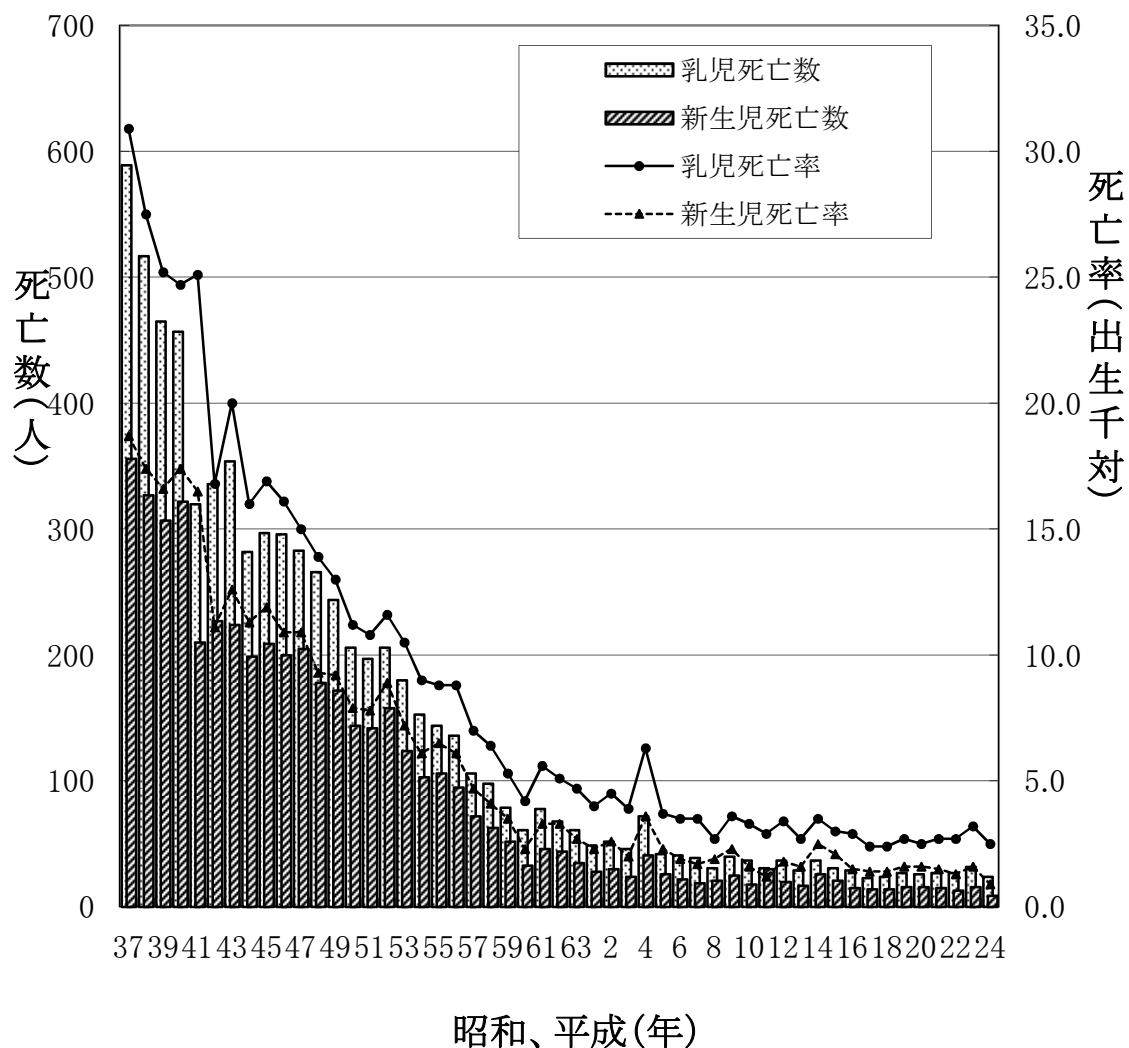
4 乳児死亡

生後1年未満の死亡である乳児死亡数は24人で、前年より8人減少した。乳児死亡率（出生千対）は2.5で、前年の3.2を下回った。その年次推移をみると、昭和60年までは急激に低下し、その後は増減を繰り返しながら、平成5年以降ほぼ横ばいに推移している。

5 新生児死亡

生後4週未満の死亡である新生児死亡数は9人で、前年より7人減少して初の一桁となった。新生児死亡率（出生千対）は0.9で、前年の1.6を下回り、全国順位が躍進した。年次推移は乳児死亡と同様の傾向となっている。

乳児(新生児)死亡数・率の年次推移

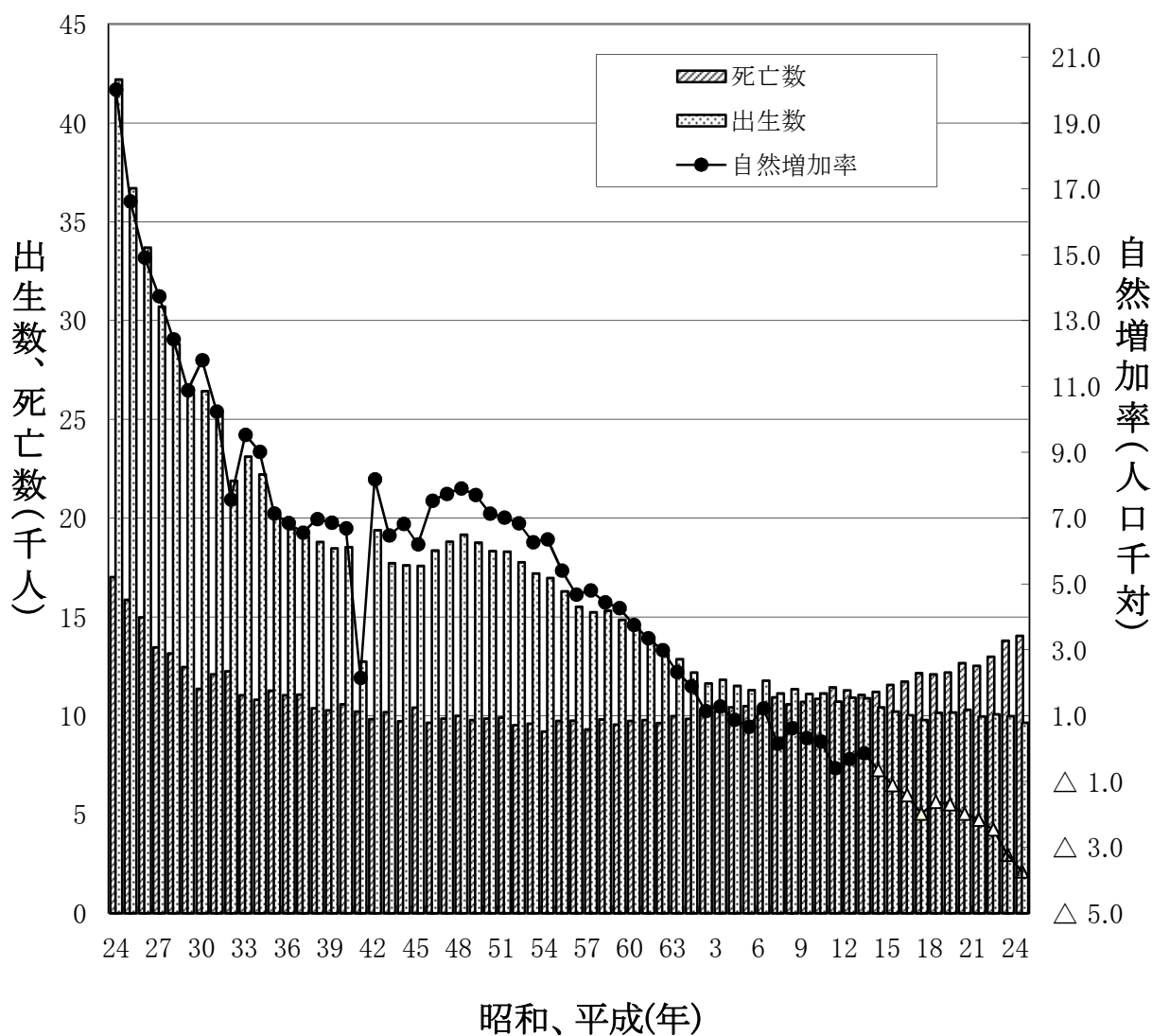


6 自然増減

自然増減数（出生数－死亡数）は△4,400 人で、戦後最大となった。平成 11 年以降、死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いている。

自然増減率（人口千対）は△3.7 で、前年の△3.2 を下回り、平成 19 年以降は減少ペースが加速している。

出生数、死亡数、自然増加率の年次推移



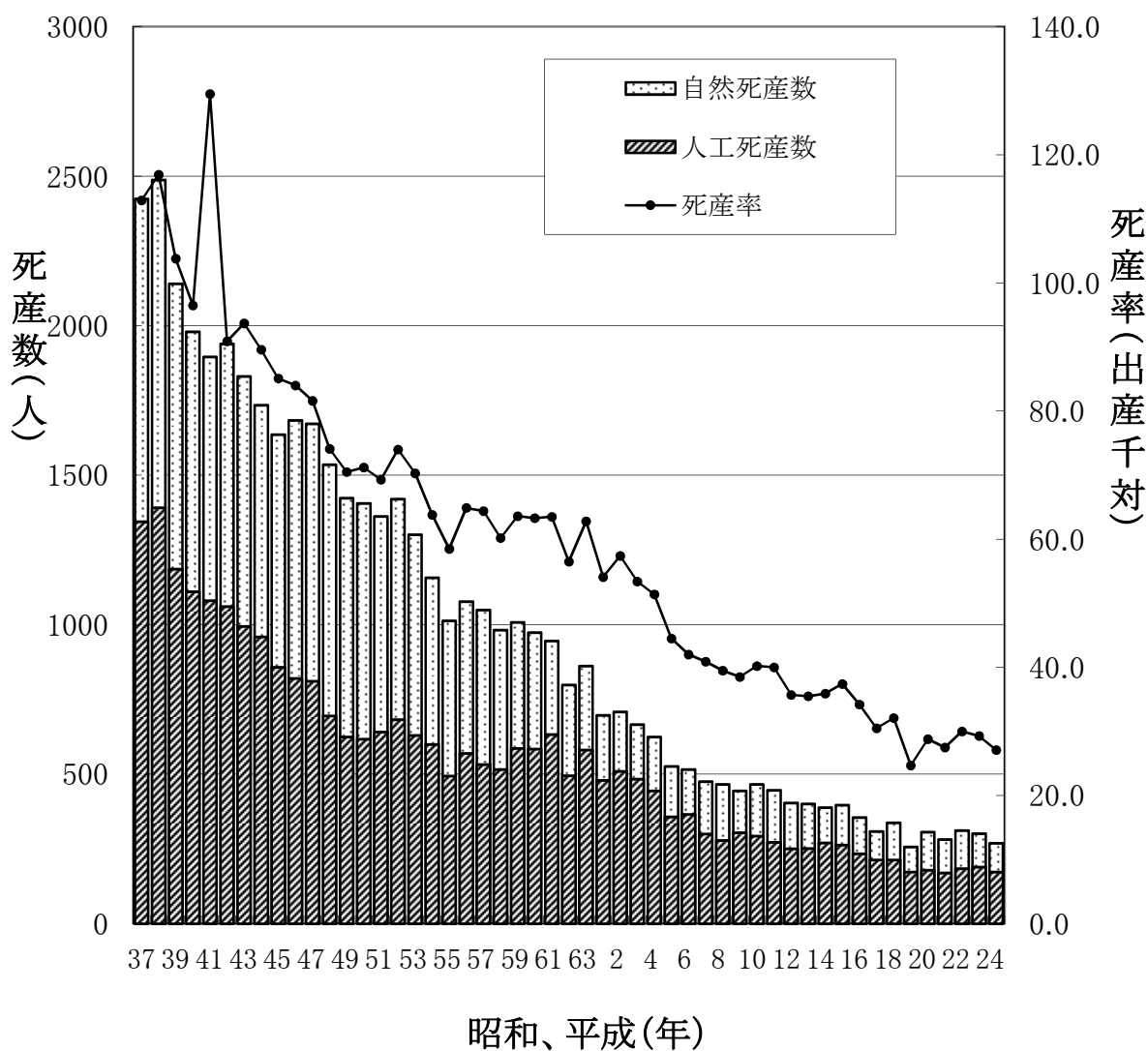
7 死産

死産数は269胎で、前年より32胎減少した。

その内訳は自然死産96胎、人工死産が173胎となっている。

死産率（出産千対）は27.1で、前年の29.3を下回った。年次推移をみると、増減を繰り返しながら減少傾向にある。

死産数(率)の年次推移



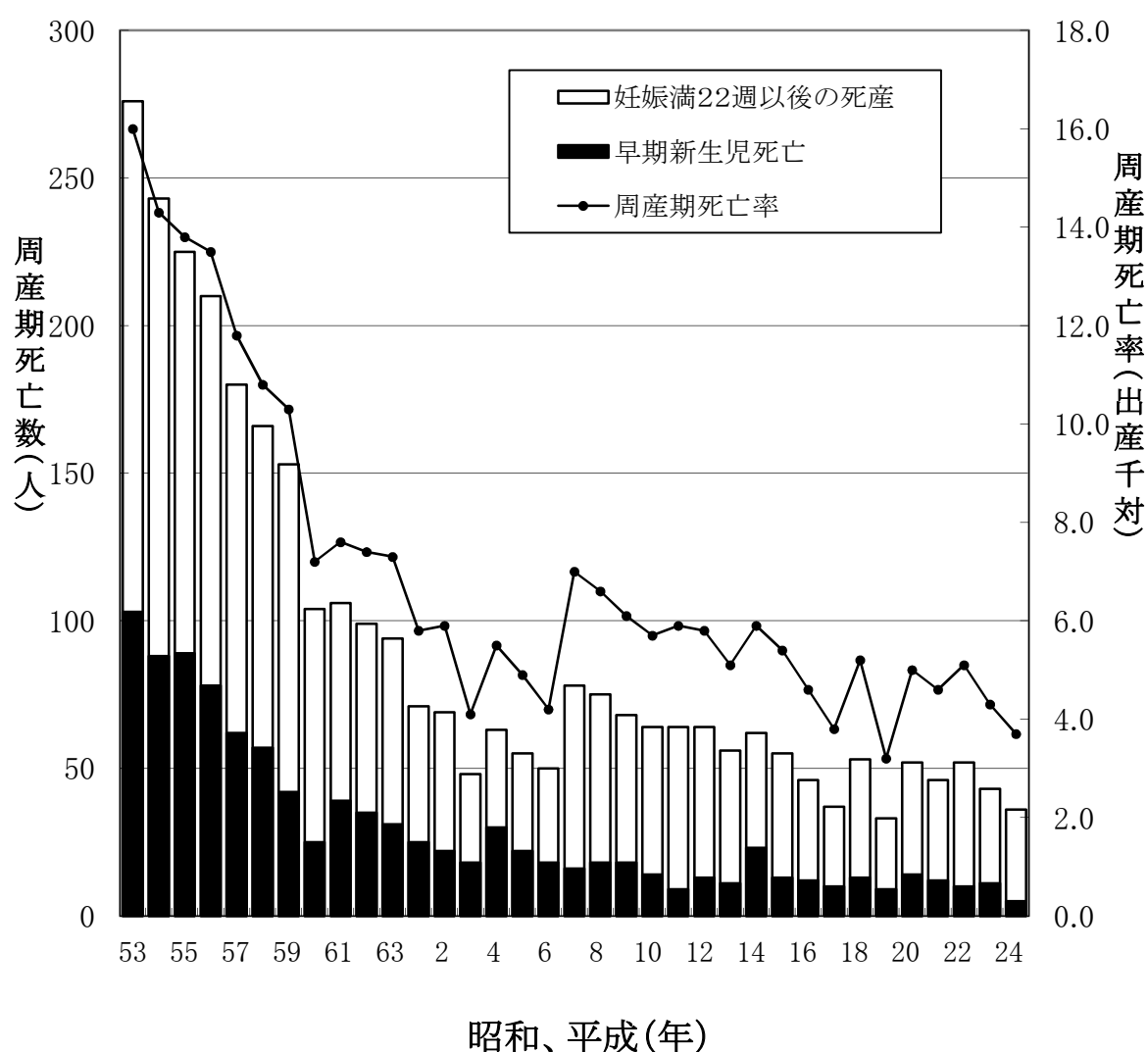
8 周産期死亡

妊娠満 22 週以後の死産に生後1 週未満の早期新生児死亡を加えた周産期死亡数は 36 (胎・人) で、前年の 43 (胎・人) より減少した。

その内訳は妊娠満 22 週以後の死産が 31 胎、生後 1 週未満の早期新生児死亡が 5 人となっている。

周産期死亡率 (出産千対) は 3.7 で、前年の 4.3 を下回った。年次推移をみると、増減を繰り返しながら減少傾向にある。

周産期死亡数(率)の年次推移

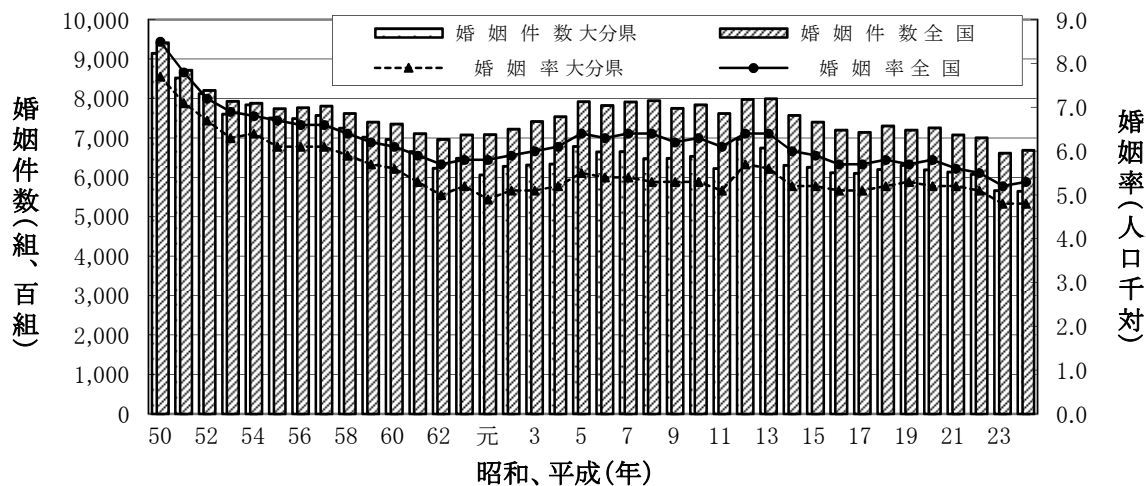


9 婚姻

婚姻件数は5,652組で、前年より15組減少した。

婚姻率（人口千対）は4.8で前年と同じ。その年次推移をみると、昭和48年以降低下を続けた後、平成に入ってほぼ横ばいに推移している。

婚姻件数、婚姻率の年次推移(全国、大分県)



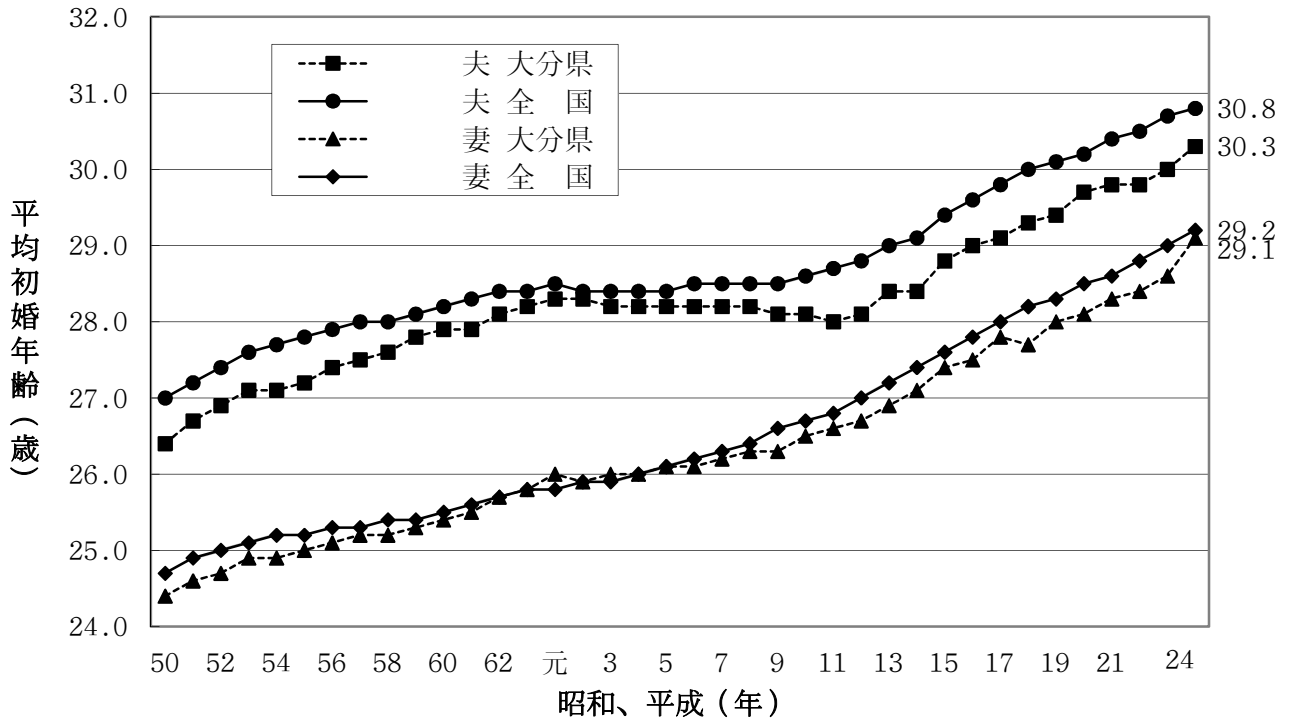
なお、平均初婚年齢は夫30.3歳、妻29.1歳であった。

夫については平成に入ってほぼ横ばいであったが、平成13年以降上昇傾向にある。妻についてもほぼ毎年上昇が続いている。

平均初婚年齢の年次推移

	夫		妻	
	大分県	全 国	大分県	全 国
平成10	28.1	28.6	26.5	26.7
11	28.0	28.7	26.6	26.8
12	28.1	28.8	26.7	27.0
13	28.4	29.0	26.9	27.2
14	28.4	29.1	27.1	27.4
15	28.8	29.4	27.4	27.6
16	29.0	29.6	27.5	27.8
17	29.1	29.8	27.8	28.0
18	29.3	30.0	27.7	28.2
19	29.4	30.1	28.0	28.3
20	29.7	30.2	28.1	28.5
21	29.8	30.4	28.3	28.6
22	29.8	30.5	28.4	28.8
23	30.0	30.7	28.6	29.0
24	30.3	30.8	29.1	29.2

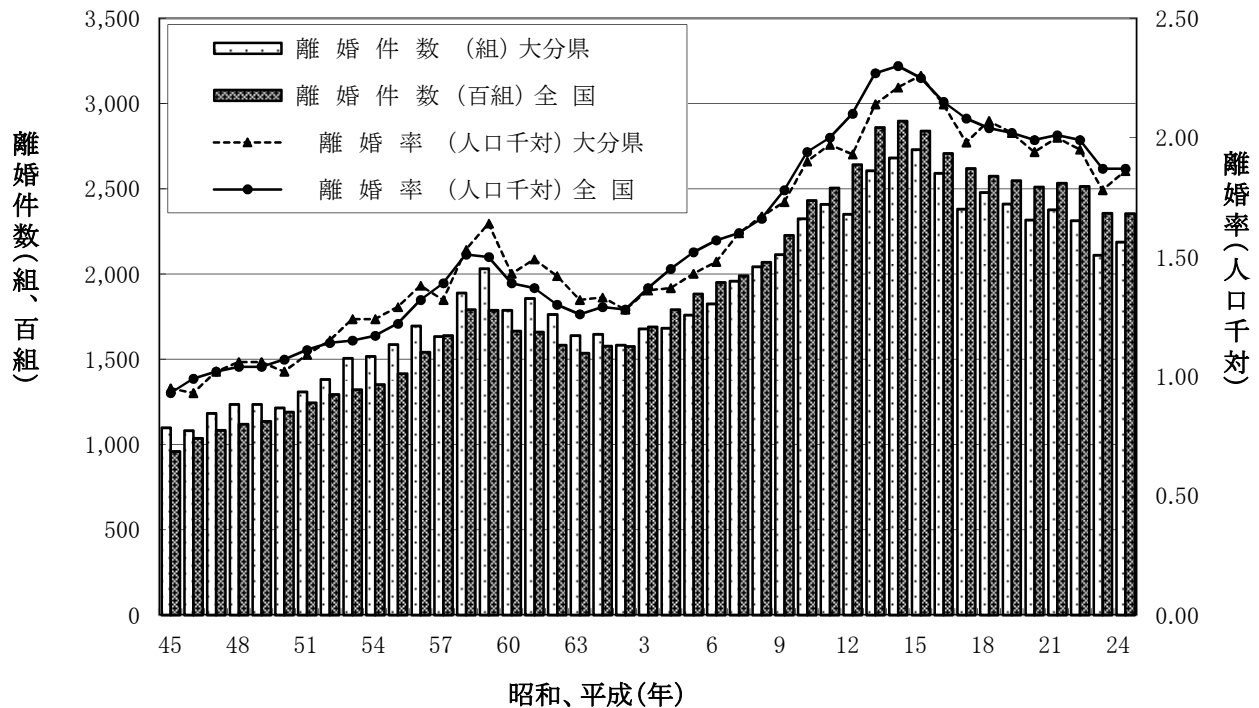
平均初婚年齢の年次推移



10 離婚

離婚件数は2,187組で、前年より77組増加した。
離婚率(人口千対)は1.86で、前年の1.78を上回った。

離婚件数、離婚率の年次推移(全国、大分県)



(参考)用語等の説明

1 用語の解説

- 自然増加 出生数から死亡数を減じたもの。
- 乳児死亡 生後1年未満の死亡。
- 死産 妊娠満12週(妊娠第4月)以後の死児の出産をいい、死児とは、出産後において心臓搏動、随意筋の運動及び呼吸のいずれも認めないものをいう。
- 自然死産と人工死産 人工死産とは、胎児の母体内生存が確実であるときに、人工的死産処置(胎児又は付属物に対する措置及び陣痛促進剤の使用)を加えたことにより死産に至った場合をいい、それ以外はすべて自然死産とする。
 なお、人工的処置を加えた場合でも、次のものは自然死産とする。
 - (1) 胎児を出生させることを目的とした場合
 - (2) 母体内の胎児が生死不明か、又は死亡している場合
- 周産期死亡 妊娠満22週(154日)以後の死産に早期新生児死亡を加えたものをいう。
- 日本人人口 総人口から外国人人口を減じたものをいう。

2 比率の解説

- 出生率 = $\frac{\text{年間出生数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$
- 死亡率 = $\frac{\text{年間死亡数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$
- 自然増加率 = $\frac{\text{自然増加数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$
- 自然死産率 = $\frac{\text{年間自然死産数}}{\text{年間出産数(出生数+死産数)}} \times 1,000$
- 人工死産率 = $\frac{\text{年間人工死産数}}{\text{年間出産数(出生数+死産数)}} \times 1,000$
- 周産期死亡率 = $\frac{\text{年間周産期死亡数}}{\text{年間出産数(出生数+妊娠満22週以後の死産数)}} \times 1,000$
- 妊娠満22週以後の死産率 = $\frac{\text{年間妊娠満22週以後の死産数}}{\text{年間出産数(出生数+妊娠満22週以後の死産数)}} \times 1,000$
- 早期新生児死亡率 = $\frac{\text{年間早期新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$
- 婚姻率 = $\frac{\text{年間婚姻届出件数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$
- 離婚率 = $\frac{\text{年間離婚届出件数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$
- 合計特殊出生率 = $\left\{ \frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別女子人口}} \right\}$ 15歳から49歳までの合計
 15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生涯の間を生むとしたときの子ども数に相当する。
- 死因別死亡率 = $\frac{\text{年間死因別死亡数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 100,000$

3 死産及び乳児死亡等の関係図

